

地域情報（県別）

【大阪】 消化器センター開設、内視鏡治療は消化器内科、手術は消化器外科に役割分担-宇野裕典・大阪掖済会病院副院長に聞く◆Vol.3

緊急内視鏡と緊急手術を24時間受け入れ可能

2024年6月14日（金）配信 m3.com地域版

大阪掖済会病院（大阪市）では、外科・消化器外科と消化器内科・内視鏡センターを一体化し、看護師、臨床工学技士など診療支援部門を含めた一つの診療科として消化器センターを開設した。これにより従来の内科・外科の垣根を取り払い、消化器疾患の患者に対してスピーディーかつ最善の治療ができるようにした。同院消化器内科・副院長の宇野裕典氏に、消化器センターの特徴や取り組みについて聞いた。（2024年3月28日オンラインインタビュー、計3回連載の3回目）

▼第1回はこちら

▼第2回はこちら



宇野裕典氏

——宇野先生が消化器内科医を目指した経緯は何ですか。

大阪大学医学部付属病院特殊救急部に所属していた頃に、多発外傷や高度熱傷、敗血症やショック状態、意識障害など多くの重症患者を経験しました。そんな中で、患者の回復には自身で食事が摂れるかどうかが非常に関係し、ヒトが生きるために「食べること」がいかに重要なことかと感じていました。摂食機能についてはその頃から興味を持っていました。2年後には摂食に最も関係が深いと思われた消化器内科の道へ進むことになりました。大阪市立大医学部第3内科（消化器内科）に入局し、摂食機能に大きく関わる胃貯留能（受容性弛緩と適応性弛緩）について研究し、1997年に医学博士の学位を取得しました。

——大阪掖済会病院消化器センターの特徴は何ですか。

消化器センターは2020年4月に開設されました。センターに所属する医師は、消化器内科部長の湯川知洋氏と外科部長の池谷哲郎氏を中心に内科医師5人、外科医師5人です。また、消化器センターと同じフロアに消化器内科・内視鏡センターと外科・消化器外科があることや、緊急内視鏡や緊急手術が必要な患者が24時間受け入れ可能なことも特徴と言えます。さらに、入院治療が必要な際には、診療支援部門が積極的に関わり、患者の外来→入院→退院後の外来の流れがスムーズになるよう努めています。

消化器センターにおいては、初診患者が受付窓口にて問診票を記入した後、その内容に基づいて消化器外科または消化器内科の医師が選択され、検査や診断が行われます。絶食で来院された患者については、内視鏡検

査も含めて当日中に画像検査まで行い、適切な治療を早急に開始できるように心がけています。

診断結果に応じて、消化器がんなどの手術、化学療法、放射線治療が必要な場合は消化器外科が担当し、一方で胆道系疾患や消化管出血、ポリープなどの内視鏡治療については消化器内科が担当しています。

——消化器センターにおける消化器外科の具体的な役割は何ですか。

急性腹症に対する治療と消化器がんに対する治療が中心となっています。急性腹症については24時間体制で救急の受け入れを行い、腹部緊急手術に対応しています。夜間や休日には当直医の診察後、外科的処置が必要な場合は、オンコールで対応しています。

消化器がんの治療では、標準治療を原則に最適・最良の治療法選択を心がけています。化学療法や緩和医療にも積極的に取り組んでいます。治療計画の決定には、消化器外科・内科の医師、看護師、薬剤師など多職種によるカンファレンスを実施しています。手術は低侵襲性や術後QOLを考慮し、腹腔鏡下手術を第一選択としています。化学療法は基本的に外来化学療法室で行っています。化学療法治療中の患者に副作用が見られた際には、24時間体制で当直医との連携を確保しています。

——消化器センターにおける消化器内科・内視鏡センターの役割は何ですか。

主に内視鏡治療を中心とした、消化管疾患や胆膵疾患に対応しています。緊急内視鏡は24時間体制で受け入れています。特に吐血・下血などの消化管出血に対する内視鏡的止血術や異物除去術、胆道ドレナージなどは適応があれば深夜でも緊急治療を行っています。

内視鏡的な腫瘍切除については内視鏡的粘膜下層切開剥離術やポリペクトミーを行っています。胆膵疾患では内視鏡的に総胆管結石除去や胆管ドレナージが可能であり、その他、食道静脈瘤治療や消化管狭窄に対する拡張術やステント挿入術なども行っています。胃瘻に関しても造設や交換だけではなく、胃瘻に関するトラブルについて幅広く対応しています。

——消化器内視鏡や手術、化学療法の実績を教えてください。

2023年度の実績ですが、上部消化管内視鏡件数が2527件、下部消化管内視鏡件数は630件、ERCP68件で総数3225件でした。内視鏡的止血術は77件、胃粘膜下層切開剥離術14件、大腸ポリープ切除227件でした。その他食道静脈瘤治療13件や消化管拡張術・ステント挿入術9件など行っています。2023年度は特に時間外の内視鏡対応が増加しています。

消化器外科の総手術数は260件で、うち緊急手術は121件です。その多くが近隣病院からの紹介や救急搬送からの症例です。化学療法の患者数は、食道がんが5人、胃がんが13人、大腸がんが25人でした。

——内視鏡センターでは「苦しくない内視鏡検査」に取り組まれています。その特徴は何ですか。

当センターで行う内視鏡検査の苦痛を和らげるために、3つの工夫をしています。1つ目は、胃内視鏡検査では、従来の内視鏡より細い内視鏡で、経鼻または経口で検査を行っています。また、セデーション（静脈麻酔）下での内視鏡検査も可能です。2つ目は、大腸内視鏡検査の希望者全員に鎮静剤を使用しており、一人一人に合わせて量を調整しています。3つ目は、内視鏡の送気は空気よりもおよそ200倍早く体に吸収される炭酸ガスを使用しています。これにより内視鏡検査後にお腹が張って苦しい思いをすることはありません。お忙しい方は、胃と大腸の検査を同じ日に両方一度に受けることも可能です。

——大腸CT検査も導入しています。

大腸CT検査は、検査を受ける方の身体への負担が少なく、近年メディアなどで注目を集めています。特徴としては、内視鏡は挿入せず、肛門に入れた細いチューブから空気を入れて大腸を膨らませて、仰向けとうつ伏せの2回CTにてお腹の撮影を行います。当センターでは大腸内視鏡検査に抵抗があり、今一步を踏み出せない

方に検討してもらっています。もちろん大腸CT検査で何らかの異常が認められた方は、大腸内視鏡検査を強く勧めます。

——最後に消化器センター化した成果、手応えなどがあれば教えてください。

緊急内視鏡や腹部緊急手術の24時間対応については、地域住民の方、近隣開業医や病院、救急隊などから期待や感謝の言葉をいただいています。実は大阪市では、時間外の消化器症状に対応している施設が需要に対し十分ではありません。搬送先が見つからない遠方の救急隊からも受け入れ要請があります。引き続き対応を継続していきたいと思います。

◆宇野 裕典（うの・ひろのり）氏

1989年鳥取大学医学部医学科卒業。1997年大阪市立大学大学院医学研究科卒業。1989年大阪大学特殊救急部入局。1991年大阪市立大学第3内科入局。1997年大野記念病院消化器内科入職。2004年同院消化器内科部長就任。2016年大阪掖済会病院副院長就任。

【取材・文＝田中 嘉尚（写真は病院提供）】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

